

## ねじりはちまき

4月 卯月 清明 穀雨の月になりました。  
4月6日清明です。同じく6日から全国交通安全運動です。15日までの10日間です。21日穀雨で、29日昭和の日で旗日ですね。

花の便りが聞かれ、散歩などが楽しい季節になりました。  
山野や道端から都会の片隅にまで、数多く自生または植えられているスミレ科のスミレ草。色も一般的な濃い紫色の他に、紅紫色、黄色、白など多彩で、群生して咲いています。花は一説では、横から見たその独特な形が大工道具の「墨入れ」に似ていることが、名前の由来とされています。

また、別名の相撲取草は、子ども達が鍵状の花を引っかけて遊ぶことからその名が付いたといわれています。

足元で咲く小さな可憐な花にも、春の息吹を感じ桜花爛漫の候ですね。

美しい春を十分に楽しんで下さい。

幸田 常一



先日4月1日に誕生日を迎え、90歳になりました。  
庭木の剪定やお便りの挨拶文を書いたりして、ゆったり過ごしています。

.....

こちら事務所です！

本宮市の現場で、新築工事を2件お世話になっております。  
どちらも、もう間もなく完成です。

## 住まいとエネルギー

今回は「住まいとエネルギー」の関係について考えてみたい。我々は毎日の生活において様々な場面でエネルギーに世話になっている。特に電気エネルギーに依存している。だが、電気エネルギーの恩恵を受けられるようになったのは、ここ百年くらいのことだ。ではその前はどうかだったのか。そこで、「住まい＝生活」の歴史の中で「エネルギー」はどのように変遷してきたのか辿るとともに、今「ゼロエネルギーハウス」が新聞広告にも登場する時代になっているが、それは何故なのかを考えてみたい。

住まいにおけるエネルギーを考える場合、その用途は調理用、風呂用、照明用、冷暖房用、車用、IT用などである。その中で、最も古くから使われているのは何だろうか。必要性から考えると、調理用だと思うが、これも食の変遷と関連すると思われる。いつの時から、食材を生でなく、先ず焼いて食べることを知ったことが想定される。時代的には、日本という縄文時代（新石器時代）まで遡れるのだろうか。調理用に火を使う場合、先ず、火の存在と効用を知っていたことになる。火を起こす技術（発火法）を発明する前の段階である。よく考えてみると分かるのだが、先ず自然発火があり、自然発火の火を知り、その火で焼かれた食材を食べる経験を重ね、それを利用することを思い立ったのだろう。自然発火は、例えば、火山噴火の火、落雷の火、木の摩擦による発火などである。だが、自然発火の火は安定的には使えない。そこで、次の段階として自力で道具を工夫して火を起こすようになる。古代発火法として知られているのは、摩擦式、「火花式（火打石）」があるが、その外にもあるようだ。現在では、化学式（マッチ）、電気式（点火プラグ）であるが。発火法とともに燃料として何を用いたかだが、杉の枯れ葉、枯れ草や枯れ枝（伐採器具の発達により薪に）などが考えられる。そして、調理の面ではやがて土器の発明によって「煮る」ことが可能となっていく。これと関連して気になるのが炭だが、燃料として「炭（木炭）」はいつ頃から使われるようになったのだろうか。これも大分古く、縄文時代には今とは違う炭焼き法が用いられていたようだが、炭はあったとのこと。これも枯れ枝を燃やす経験の中で、培われていった工夫の成果なのだろう。こうして発火法の工夫と効率的な燃料の確保の工夫が積み重ねられ、調理用のほか暖房用や照明用へと多様な展開への道が開かれていく。火は先ずその熱が利用され、次にその光が利用され、やがて近代に入り動力へと応用されていく。火（エネルギー）は文明の礎をなすものだとつくづく思われる。

ところで、住まいとの関係でいうと、住まいの方式がどうであれ、雨風雪を凌ぐ外、寒さを凌ぐ、暗さを凌ぐことのいずれが優先されたものか。火を焚けば自ずと温かくなり、明るくなるのは分かっていたのだから、それぞれの用途に必要なに応じ、焚火は使われていたということだろう。例えば、松明やかかり火として使われるようになるのは照明目的であるが、住まいの照明用として工夫されたのはずっと後かも知れない。ずっと遡れば太陽の運行に合わせての生活だったと思われる。照明用として使われている場面で思い浮かぶのは、平安時代族の住まい・寝殿造りの部屋の照明だ。油を入れた皿に点燈芯を浸し、火をつけて明かりとしているところである。庶民はどうだったかは分からない（まだ竪穴式住居だったという）。この場合の油は植物油で、ゴマ油や菜種油（普及するのは江戸時代。だが高価であった。）だったようだ。室町時代以降庶民に普及していく中で、灯油（ともしびあぶら）として魚油（イワシなど）も用いられるようになる。こうしていろいろ想像するのはとても面白い。照明といえば、ロウソクが考えられるが、いつ頃からなのだろうか。ロウソクは奈良時代に中国から伝わったという記録がある。主に宮中や寺社用であったらしい。庶民には手が届かない。我が国でロウソクが国産として造られるのは16世紀の戦国時代になってからのことだ。ウルシやハゼノキの実からのロウで造ることができるようになったのである。さらに、江戸時代になるとウルシやハゼノキの栽培が各地で盛んになり、生産・流通の体制が整い、ロウソクが次第に普及していったとのことである。



## 「ナダレ」

3月下旬に那須連峰のスキー場付近で、ナダレ(以下「雪崩」と書きます)が発生、高校生ら8名がこの雪崩に巻き込まれ死亡するという、大変痛ましい事故となりました。同じ日に、福島県の安達太良山に登山をしていた2人が、同じく雪崩に巻き込まれ1人が犠牲になり、大きなニュースとして新聞・テレビで報道されたので、皆様方ご承知のことと存じます。

私がお世話になっている山岳愛好会では、過去に3回ほど夏山山行で茶臼岳に登り、全員元気に山頂に立ちました。

そして10数年来、毎年3回ほど冬期トレーニングを実施しておりますので、今回の雪崩による事故を他人事とは思えず、一層身近に感じられます。

先ず、犠牲になった方々に対して心からご冥福をお祈りいたしますと共に、前途洋々たる若い命を奪われてしまったご遺族の皆様方に対し、衷心からお悔やみを申し上げます。

今度の雪崩事故の経過を報道により辿りますと、栃木県内の複数の高校山岳部が春山登山訓練の為、那須連峰茶臼岳への登山を企画しました。

ところが、実施日は前日から悪天候が続き、新たに降り積もった雪が50cmにも達した為、登山することを断念し急遽予定を変更して、ラッセル訓練(降り積もった新雪の中を歩く)に切り替えられました。

このラッセル訓練を開始して30分程後に、幅50cm厚さ40~50cm長さ200mにわたり、新雪雪崩が発生して指導の先生を始め、高校の生徒ら8名の命を奪うという大惨事となってしまったことが、那須での雪崩事故の経過のようです。

私も毎年冬期トレーニングに参加している1人ですが、雪崩の経験はありません。しかし、3月下旬は2000mクラスの高い山では真冬(都市生活を楽しんでいる所から見て)と考えるべきです。

そんな中で「春山登山訓練」とは、一体どういう理由か理解に苦しみます。

私は、山岳愛好会の仲間と数年前の10月下旬に、山形県の月山(1984m)に登山したことがあります。

登山口付近は、見事な紅葉を楽しむことができましたが、山頂付近では真冬の状態でした。風は刺すように冷たく、丈の短い樹木や草紅葉(森林限界)は氷結しており、まさに冬山そのものでした。

幸いにして、冬山の装備で遭難をまぬがれましたが…。

また、那須連峰の茶臼岳(1915m)も森林限界を超えた急峻な山です。当初の計画の登頂を断念した判断は適切だったと愚考しておりますが、このような事故が再び起こらぬように、関係機関が一致して再発防止の措置を講じていただくよう、切望している次第です。

k・s記

---

## 「<sup>せい</sup>明<sup>めい</sup>」

春分から15日目にあたります。  
春の陽光を浴び、すべてのものが生气に満ちている様子を表したものです。

気温も上がり、戸外へ出るのが楽しみになって来ました。  
土手や道端には一面に草花が咲き、家々の玄関先には春の花が咲き始め、  
いい季節になったなあと思います。

---

## 今月の旬♥食材

### 「ふきのとう」 「ごごみ」

ふきのとうもごごみも、手軽でおいしいのが天ぷらでしょうか。  
ふきのとうのほろりとした苦味がたまりません。ふきのとうみそも、おいしい  
ですね。ご飯にも、酒の肴にも合います。

ふきのとうにはデトックス効果があって、体内の老廃物を排出してくれるそうです。

ごごみは天ぷらの他にも、ゆでておひたしにしたり、ごま和えにしても  
いいですね。鮮やかな緑色がキレイなので、食卓に彩りを添えてくれます。

ごごみには整腸作用や、病気や老化の原因となる、活性酸素を抑える作用が  
あるようです。

春の山菜には、体の中をきれいにしてくれる力があるような気がします。

## <会社近況>

4月は、「卯月(うづき)」ともいいますね。  
この頃は、卯の花が満開になることからこの名が付いたようです。  
入学や就職、転勤などで、環境が変わる方も多いでしょう。  
どうか体調を崩さないよう、お体大切になさってください。

☆☆☆今月はお知らせがたくさんあります☆☆☆

### **渡辺 和次** 退職

昭和41年4月に入社してから、50余年。 この度、退職することになりました。  
皆様方には大変お世話になりました。  
本当に長い間ありがとうございました。  
奥様もすでに退職されているので、今後は奥様とのんびり過ごすようです。  
和次さん、お疲れ様でした。

### **渡辺 正吾** パパになる♡

平成26年に結婚した渡辺正吾夫妻に、この度待望の第1子が誕生しました。  
4月6日誕生！かわいい女の子です。  
正吾くん、おめでとう～(\*^\_^\*)

### **吉田 芳一** 結婚して、「鈴木 芳一」になる！

昨年8月に入社した吉田くんですが、先月結婚いたしました。  
そして、姓が「鈴木」になりました。  
おめでとう～(\*^\_^\*)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

平成29年 4月5日発行  
有限会社 幸田建設  
<発行責任者>幸田久美  
〒969-1204  
本宮市糠沢字八幡1-1  
電話0243-44-3816

<後記>  
…社員研修のお知らせ…  
5/14(日)～15(月)研修のため  
お休みさせていただきます。  
ご迷惑をおかけいたしますが、  
よろしく願いいたします。(事務員k)